



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社



検索 www.jrc.or.jp



www.facebook.com/japaneseredcross



www.twitter.com/JRCS_PR



www.youtube.com/user/JapaneseRedCrossPR



日本赤十字社の活動 2017

人間を救うのは、人間だ。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

この同じ空の下、

人は手と手を取り合って生きている。

人間は決してひとりじゃない。

だからこそ強くなれるのだと、

私たちは信じています。

人がいま、
試されている。

人間を救うのは、人間だ。



P04 国内救護活動

P06 海外救援活動

P08 身近な赤十字の活動

P10 平成27年度活動資金の使いみち

P13 活動資金のご協力方法

P14 9つの赤十字事業

国内救護活動

救護班・救援物資を被災地に



© Naobumi Chiba

熊本地震災害(2016年4月)

死者58人、全半壊家屋2,876棟、避難者数最大18万人以上の甚大な被害をもたらした熊本地震災害。日本赤十字社は207班(約1,600人)の救護班、仮設診療所(dERU)4班などを派遣しました。

診療傷病者数
約5,000人

救援物資配付

緊急セット … 654セット

毛布 … 20,980枚

安眠セット … 6,401セット



台風10号災害(2016年8月・9月、北海道・青森・岩手ほか6県)

台風10号等にもなう大雨により、北海道・岩手県の広い範囲で人的・物的損害が発生。日本赤十字社は延18班の救護班派遣や物資を届けました。



鳥取県中部地震災害(2016年10月)

負傷者30人、全半壊家屋212棟、避難者500人以上の被害が発生したこの災害に、日本赤十字社は救護班2班の派遣や物資の配付をしました。



糸魚川市大規模火災(2016年12月)

焼損147棟、建物焼失面積4万平方メートルに及んだ大規模火災に、日本赤十字社は毛布や安眠セットなどの救援物資を配付しました。



東日本大震災6年目(発災2011年3月)

死者19,475人も被害となった東日本大震災から6年。日本赤十字社は、いまこころのケアなどの地道な復興支援を続けています。

海外救援活動

国境や民族、宗教などの違いを越えて



© SARC



救援物資配付 450万人 (月あたり)
 保健衛生の普及 250万人
 子供と家族へのこころのケア 316,000人

(2015年)



© IFRC

ハイチ・ハリケーン被害 (2016年10月)

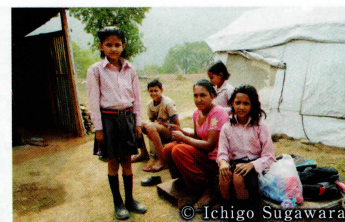
ハイチ共和国は、大型ハリケーンにより210万人が被災。国際赤十字は、3,000人以上のボランティアの派遣や飲料水・防水シートなどの配付を行いました。日本赤十字社も現地に派遣中の復興支援要員を直ちに被災地に派遣し、被災者の救援にあたりました。



© Ecuadorian Red Cross

エクアドル地震 (2016年4月)

死者・行方不明者676人の被害となった南米エクアドルに、国際赤十字はボランティアを派遣し、こころのケアや物資の配付を行いました。



© Ichigo Sugawara

ネパール地震災害(復興) (2015年4月)

8,856人の死者を出したネパールに、日本赤十字社は直後から医療救援活動を実施。翌年にかけて山間部で崩壊した診療所4棟を再建しました。

身近な赤十字の活動

ひとりでも多くの命を守るために

「まもるいのち ひろめるほうさい」の普及

「まもるいのち ひろめるほうさい」は、日本赤十字社と学校現場の教員が提案する防災教材です。現在、全国の小中高合わせて約36,000校に配付されています。



© Ichigo Sugawara

教材の配付
全国約36,000校

救急法の普及

救急法講習は、2016年7月から現場を想定したケーススタディーを取り入れ、より学びやすく実践的な内容になりました。2015年度は55万人を超える人たちが講習に参加しました。



ボランティア活動

熊本地震災害では、延261人の赤十字ボランティアがボランティアセンターを拠点に活動。炊き出し、救援物資配付のほか、健康体操教室など被災者に寄り添った支援を行っています。



平成27年度 活動資金の使いみち

皆さまからの寄付をもとに、幅広く、継続的な支援を行っています。

平成27年度、日本赤十字社は一般会計と3つの特別会計（医療施設、血液事業、社会福祉施設）をあわせて総額1兆3,850億円を超える規模の事業を展開しました。このうち、個人・法人の皆さまからいただいた社費（会費）や寄付金を主な財源としている一般会計で実施した活動にかかる歳出※は以下のとおりです。

義援金 50億7,044万6千円



義援金は被災県に設置される「義援金配分委員会」を通じて、その全額を被災された方々に届けます。すでに41億9,914万4千円を該当の配分委員会に送金しており、残りも順次送金されます。

国内の災害
救護活動のために

64億4,841万3千円(14.5%)

東日本大震災
復興支援のために

42億8,728万1千円(9.6%)



海外での救援・開発協力活動のために

42億583万4千円(9.4%)



「守る」をひろめる活動のために

33億3,065万5千円(7.5%)

赤十字施設の設備投資のために

52億4,899万5千円(11.8%)

翌年度以降の
継続事業のために

77億3,069万7千円(17.3%)



地域のボランティア活動支援のために

20億774万4千円(4.5%)



広報・普及活動のために

25億110万8千円(5.6%)

次年度繰越金

38億4,505万6千円(8.6%)

管理運営のために

49億9,540万9千円(11.2%)

446億
119万7千円

※注1) 本社・支部間で重複計上されている26億985万3千円については、歳出から差し引いて表示していること ※注2) 東日本大震災海外救援金については、平成27年度に復興支援のために支出した42億8,728万1千円についてのみ本グラフに掲載していること

日本赤十字社の人道支援活動は、皆さまからの寄付で支えられています。

あなたのご寄付でできること

全国の医療救護班が迅速に駆けつけられるために!

災害時に備え、赤十字病院の医師や看護師を中心に編成された救護班を全国で約500班(約7000人)編成。災害が発生すると、すぐ救護班や全国に20ユニット配備しているdERU(国内型緊急対応ユニット)などを派遣します。



¥2,300万

dERU整備費
(テント・トラック含む1ユニット)



救護班約500班
(約7,000人)

大きな災害に備え、救援物資のさらなる充実を!

日本赤十字社は災害発生後、救援物資をすぐ被災者に届けられるよう、日ごろからたくさんの毛布や安眠セット、緊急セットを備蓄しています。



¥2,000

安眠セット
(1人分)



¥3,000

緊急セット
(1世帯4人分)



¥1,300

災害時用
毛布(1枚)

想定される巨大地震への備蓄は、まだまだひとりでも多くの人を救うために、あなたの

(南海トラフ巨大地震で想定される避難者数950万人に対し、日本赤十字社が現在

活動資金のご協力方法

主に以下の3種類で寄付を受け付けています。

こちら以外にも赤十字ボランティアや町内会・自治会を通じて、寄付をすることができます。



インターネットで



口座振替で



お近くの
赤十字窓口で*

詳しくはホームページでご案内しています。ぜひご覧ください。

日本赤十字社 寄付する

Q 検索

※各都道府県支部または市区役所、町村役場の窓口

【寄付された場合の税制上の優遇措置のご案内】

日本赤十字社にご寄付いただいた活動資金は、その内容や期間によって個人の所得税や企業等の法人税での優遇措置が受けられます。また、遺言により、財産の一部の受取人として日本赤十字社を指定することや、ご遺族が相続された財産を日本赤十字社に寄付することによって、相続税での優遇措置もあります。

【表彰制度のご案内】

活動資金や献血などにご協力いただいた場合は、表彰制度を設けています。詳しくは、日本赤十字社の各都道府県支部までお問い合わせください。

足りません。
支援をお待ちしております。

備える救援物資数は44万セット)

いのちをつなぐ9 つの赤十字事業

皆さまからのご協力をもとに、日本赤十字社は人々の

健康的な生活や未来を支援する活動を行っています。

いのちを救う

国内災害救護

災害などが発生した際、いち早く医療救護活動を行うために救護班を派遣するとともに、被災された方のこころのケアを行います。



国際活動

紛争や自然災害、病気などで苦しむ世界中の人びとを救うため、190の国と地域に広がるネットワークを生かし、活動を続けています。



医療事業※

全国に92ある赤十字病院・産院は、公的医療機関として救急医療、がん診療、周産期母子医療、へき地医療などを行っています。



血液事業※

年間約120万人の方が輸血を必要としており、血液センターや献血ルームでは日々、多くの皆さまにご協力いただいています。



救急法等の講習

AED(自動体外式除細動器)の使い方や高齢者支援に役立つ介護技術、子どもの事故防止と手当など、全国で講習を行っています。



せいかつを支える

社会福祉※

さまざまな事情で自立した生活を送れない人のために、全国29カ所で児童福祉施設や高齢者福祉施設などを運営しています。



赤十字ボランティア

赤十字の活動は、世界中の約1,710万人、日本では約130万人のボランティアによって支えられています。



ひとを育む

青少年赤十字

全国で教育現場で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標として、子どもたちが自分で「気づき、考え、実行する」力を育んでいます。



看護師等の教育※

保健・医療・福祉のニーズの変化に対応し、国内外を問わず広く社会に貢献できる、質の高い看護師等を養成しています。

